

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-1-1
企業の競争力強化

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

港湾空港課長 土肥美実

電話番号

0852-22-5228

事務事業の名称	ポートセールス事業	
目的	(1) 対象	浜田港の利用企業及び利用の見込まれる企業
	(2) 意図	国内外の市場獲得に向けて、国際貿易港浜田港の取扱貨物量の増加を図る。
事業概要	浜田港の利用を促進するため、利用企業及び利用の見込まれる企業に対して、商工労働部などと連携して宣伝活動等を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 韓国定期コンテナ航路の取扱貨物量	目標値		3,000.0	3,300.0	3,600.0	3,900.0	TEU
	式・定義 コンテナ取扱実績本数	取組目標値						
		実績値	2,481.0	2,918.0	3,604.0			
			達成率	-	97.3	109.3	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	401	401
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 韓国航路コンテナ取扱本数は、3,604TEUで対前年度比123.5%（過去最高を記録）
- 貿易総額は、対前年比71.2%
- そのうち、輸出額については、対前年比59.1%（パルプ、中古車の輸出が増加したものの、地下資源の掘削調査関係資材のスポット貨物の輸出が減少）
- 輸入額については、対前年比76.3%（石炭、粗鋼物が増加したものの、地下資源の掘削調査関係資材のスポット貨物輸入が減少）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- コンテナ貨物輸出は、パルプの輸出が本格的に開始となった影響で、取扱貨物量が対前年比181%の増加。
- コンテナ貨物輸入は、悪天候により寄港回数が減少となったことや、スポット貨物が減少した影響から、対前年比95%の減少。
- コンテナ輸出入全体で、対前年比124%増加し、過去最高を記録
- 現行のコンテナ船（700TEU）の大型化（1000TEU）要望や、荷役速度の向上によるリードタイムの短縮、他港との競争力強化のため、福井4号岸壁にガントリークレーンの整備を行っており、平成30年度中の供用開始を目指している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ロシア向け中古車輸出、原木輸入が減少傾向。

②困っている状況が発生している「原因」

- ロシアの中古車需要の減少。
- 檜丸太やパルプの輸出が大幅に減少。
- 合板材料を国産材にシフトする傾向。

③原因を解消するための「課題」

- 中古車に代わる対ロシアの新規貨物の掘り起し。
- 国産材の輸送をトラックから内航船にシフト。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- H25年度開設した浜田港湾振興センターを中心に、浜田港振興会や浜田市がH26年度に新設した広島開拓室、平成28年度に設立した浜田港拠点化形成研究会などが連携し、ポートセールスの強化、集貨対策を行う。